

中学生による提言発表会「市長と語る会」 発言に対する対応方針

〔開催概要〕

日時:令和5年12月27日(水)13:30～14:20

場所:本館講堂

令和6年3月

鹿児島市 市民協働課

「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和5年12月27日（水）13：30～14：20

場所：本館講堂

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
1	鴨池中学校	<p>タイトル：「ゼロカーボンシティについて」</p> <p>「かごりん」の名前は知っているけど、乗ったことはないという人が多くいるのではないかと考え、クラスで「かごりん」についてのアンケートをとってみたところ、知っていると答えた人は全体の71.4%だったが、使ったことがあると答えた人は、全体のわずか3.5%であった。</p> <p>「かごりん」の利用のしづらさには、以下の三つの理由があると考えた。</p> <p>①設置場所が少ない ②設置場所を知っている人が少ない ③利用客が限られている</p> <p>そこで、ゼロカーボンシティを実現するため、「わたしたちでも乗れるかごりん」をテーマに利用しやすい「かごりん」を目指して、以下の5つの案を提案する。</p> <p>【提案1】かごりんをもっと別の場所にも コンビニに「かごりん」を設置することで、設置箇所を増やすことが出来る。また、「かごりん」を利用するためにはスマホが必要であるが、コンビニにおいては、対面での貸出が可能になり、スマホを持っていない人でも借りられるようになるため、利用しやすくなる。</p> <p>また、住宅街に「かごりん」を設置することで自宅からすぐに乗れて楽だ、便利だと感じる人が増えて、様々な用途で利用する人が増える。</p> <p>【提案2】かごりんを使ったイベントの開催 クラウドファンディングやふるさと納税を使って、鹿児島馬拉ソンと同じ日に「ツールドかごりん」を開催し、「かごりん」の知名度を上げることで、「かごりん」に興味を持つ人を増やすことができる。また、クラウドファンディングやふるさと納税、広告によって、イベント費用を減らすことができる。</p> <p>【提案3】かごりに違う乗り物も！ 三輪自転車、シニアカー、キックスクーターなど自転車以外の乗り物の選択肢を増やすことで、様々な人に利用してもらえるようになる。</p> <p>【提案4】貸し出しをICカードでも 免許証を持っていない学生は「かごりん」を借りることが出来ないため、ICカードでの貸出を可能にするなどで、貸出の問題点を解決することが出来る。</p> <p>【提案5】ヘルメットの着用について 鹿児島市に住む12歳以上18歳以下の市民にヘルメットを無料配布し、ヘルメット着用の推進を図る。</p>	<p>ゼロカーボンカーボンニュートラルを含めて、「かごりん」に注目していただけてありがたい。提案いただいたように「かごりん」にはいろいろな可能性があると感じている。</p> <p>まず、ポートを増やして欲しいという提言について、少し前に「かごりん」のシステムを現金決済からスマホベースに入れ替えて、設置費用が下がったことにより、ポートを増やしやすくなった。</p> <p>現在、「かごりん」について走行データを分析し、皆さんが主にどこを通過してどこにポートが必要かということ进行分析している。ぜひ必要なところにポート設置を考えていきたいと思っている。</p> <p>あわせて、皆さんが安心して安全に通行できる場所が大切であり、鹿児島市でも順次自転車走行ネットワークを広げて、ぜひデータを見ながら、必要なところを拡大できればと思っている。</p> <p>そして、コンビニ設置の案については、実は前の「かごりん」の時には、民間の方から土地を無償で貸していただき設置した事例もあったので、今後、もし興味を持っていただけた民間企業等あれば協議していきたいと思う。</p> <p>「ツールドかごりん」に関連して、サイクルツーリズム、自転車を生かした観光促進は大切であり、県や国、他の市町村とも連携をして、桜島や錦江湾沿いで自転車で旅行を楽しめるようにしたい。そのためには安全な道路が必要なので、順次進めているところであり、ぜひこちらも注目していただきたい。</p> <p>ヘルメットについては、やはり安全に走ってもらうことが大事なので、非常に重要な課題だと思う。確か国の法律で努力義務になり、その前に県の条例で、児童生徒については、保護者を含めて努力義務になったかと思うので、どのような財政措置や支援であるかを確認しながら、適切な対応をとっていききたいと思っている。</p> <p>このカーボンニュートラル、そしてこれからますます広がる「かごりん」の可能性に注目していただき、有難いと思う。</p>	<p>企画財政局 危機管理局 環境局 観光交流局 建設局</p>	<p>本市では、自家用車等から環境にやさしい自転車プラス公共交通への転換を促進し、CO₂排出量の削減、中心市街地の回遊性の向上、観光の振興を図るため、かごりんを運営しております。</p> <p>【提案1】 サイクルポートの設置場所については、走行データ等を活用し、既存ポートや公共交通機関からの乗り継ぎ等も考慮して検討していきたいと考えております。</p> <p>【提案2】 市長回答のとおり</p> <p>クラウドファンディング型ふるさと納税については、令和5年度から試行的に取組を始めたところであり、共感を得られやすいプロジェクトについては、活用の可能性があるものと考えております。</p> <p>【提案3】 かごりんとしては、自転車以外の乗物の共同利用は、考えていないところですが、ご意見として賜り、今後の事業の参考とさせていただきますと存じます。</p> <p>【提案4】 ICカードでの貸出については、1日パスが一部ICカードとなっております。また、学生など免許証を所持していない方もスマートフォンの専用アプリで事前に保護者の同意のもと保護者等のクレジットカードを登録することで利用することができ、スマートフォンを所持していない場合も、保護者等のスマートフォンで交通系ICカード等を鍵カードとして登録することにより、それらを使用しかごりんを利用することができますので、詳しくはかごりんのコールセンターへお問い合わせください。</p> <p>【提案5】 ヘルメットについては、道路交通法において着用が努力義務となっており、県のかごしま自転車条例では保護者の中学生以下の子どもに乗車用ヘルメットを着用させる義務が定められていることから、かごりんの利用者に対しては、これまでも専用アプリやSNSなどを活用し着用について周知広報を図っているところですが、さらに今後は利用者にヘルメットを貸し出すことで、着用を促すとともに自転車の安全な利用について啓発を行う予定としております。</p>

「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和5年12月27日（水）13：30～14：20
場所：本館講堂

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
2	西陵中学校	<p>タイトル：Clean&Green～鹿児島が切り開く持続可能な道～</p> <p>修学旅行で訪れた福岡と鹿児島を比べて、福岡市はごみが少なく清潔なまちであることに気が付き、2年生103名にゴミに関するアンケートを実施した。その結果、ごみステーションの匂いを感じたり、散らかっている状態を目にしたことがある人が圧倒的に多いことが分かった。鹿児島市を「自然と都市が調和したうるおいあるまち」にするため、以下を提案する。</p> <p>【提案1】ごみ収集システムの変更 福岡市のように、ごみは夜間に家の前に置き、ごみ収集車は路地を進みながら収集するスタイルにすることで、ごみステーションに持って行く手間を省くことができ、さらに自宅前に置くことで違反ごみの減少も見込むことができる。 また、マイアミ市が実施している方法で、各家庭が捨てるごみ箱にバーコード等が記載され、ごみの排出元が特定できる仕組みを真似して、ごみ袋にバーコードが記載されたタグをつけることも提案する。この提案を実現すれば、違反ごみの減少が期待できる。</p> <p>【提案2】ごみ袋の指定・有料化 ごみ袋を指定・有料化することで、家庭ごみが削減され、焼却場や処分場、清掃工場等の負担を減らし、延命化することができる。ごみ袋を買わず、不法投棄が増えてしまうことや、市民への金銭的負担、販売所の事務負担等がデメリットと考えられるが、レジ袋が有料化された年にはプラスチックごみが減ったというデータがあり、意識づけができるメリットがある。実際にごみ袋を有料化している始良市が鹿児島県内の平均と比べてごみの排出量が少ないことから効果が見込まれる。</p> <p>【提案3】ごみ回収時間の変更 ごみステーションの鳥獣被害を減らすため、福岡市のように夜間にごみ収集を行うことを提案する。鹿児島市のごみ出し時間は午前0時から午前8時までとなっており、カラスの活動時間と被っている。その結果、ごみが収集されるまでの間にカラスに荒らされてしまうリスクがある。 また、福岡市に住んでいた人からは夜にごみ出しができることで朝に余裕ができることや、通勤通学時間にごみ収集車が通らないことで渋滞が緩和されるというメリットも聞いたことから、ストレスが減る効果も期待できる。</p>	<p>ごみ収集という市の、身近で大変な仕事に着目してくれたことに感謝する。 戸別収集と夜間収集が提案されたことと理解している。 戸別収集については、人口密度が高い地域においては、集める手間があまりかからないことから効果的な手法である。 一方で、鹿児島市は県内でも広い面積を有する自治体であり、5地域を含めて、とても広いところに散らばって人が居住している特徴があり、その点が大きな課題である。その中で、高齢の方や体が不自由な方向けには、まごころ収集という家の前にごみを出していただき収集する取組をしており、引き続きその点をしっかり取り組んでいきたい。 夜間収集については、収集を担っている方に夜間就労をお願いしなければならない点である。夜間に働いてくれる人が揃うかという課題が考えられる。 マイアミ市のバーコードについては、個人が特定されてもよいという理解を得てやっており、参考になる例と思われる。かつては、氏名を書く自治体があったが、プライバシーの侵害となる問題があった。バーコードであれば、通りがかりの人に個人が特定されないため興味深い提案である。 ごみ袋の有料化については、ごみが削減できなければ有料化せざるを得ない状況を市民の皆さまにお伝えし、削減に向けて取り組んだところ、1人1日470グラムを切る目標を達成することができた。引き続き、ごみの削減について取り組んでまいりたい。</p>	環境局	<p>【提案1】 ごみ収集システムの変更（戸別収集）の提案については、市長回答のとおり課題があり、難しいと考えております。 また、ごみ袋にバーコード記載のタグをつける提案については、違反ごみを減らす方法を検討するなかで、参考にさせていただきたいと考えております。</p> <p>【提案2】 ごみ袋の指定・有料化の提案については、市長回答のとおり、家庭ごみマイナス100gの目標を達成したことから、本市では有料化の手法を用いずに家庭ごみの減量化に取り組んでいくこととしております。</p> <p>【提案3】 ごみ回収時間の変更の提案については、市長回答のとおり課題があり、難しいと考えております。</p>
3	明和中学校	<p>タイトル：どの世代でも楽しめるスポーツイベントを考える</p> <p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、中学2年生の50メートル走の結果が男女ともに全国平均を下回っており、さらに昭和60年の市の平均と比べても、男女ともに遅くなっていることが分かった。また、ボール投げも同様に飛距離が短くなっている。</p> <p>これらのことから、私たち子供の体力が昔と比べて低下していることが分かった。</p> <p>さらに、令和4年度鹿児島市スポーツ実施状況等に関する調査分析報告書から、成人の週1回以上のスポーツ実施率や1年に1度もスポーツをしない人の割合は共に減少傾向にあるが、いまだに5人に1人は何もスポーツをしていないということが分かった。</p> <p>これらのデータから、子供の体力低下や生活習慣病などの運動不足からくる健康上の問題などの課題が浮かび上がった。</p> <p>そこで、課題を解決する方法として、「みんなが“わくわく”するイベント」、「誰もが気軽に参加できるイベント」、「低コストで実施できるイベント」をテーマに考え、子供だけでなく大人まで幅広い層で楽しむことができ、特別な道具を用意する必要もなく、屋内屋外問わず実施でき、いろいろとアレンジできる「しっぽ取りゲーム」を新しいスポーツイベントとして提案する。</p> <p>「しっぽ取り」は後ろにつけたヒモ、タオル等を取り合う鬼ごっこで、取ったシッポの数で勝敗を決定する。誰もが追いかけて、追いかけるゲームなので、通常の鬼ごっこより盛り上がる。コミュニケーション能力を高めるだけでなく、反応能力、バランス能力、自分と他人との位置関係、距離等を図る定位能力、身体を無駄なくスムーズに動かす連結能力など、様々な能力が鍛えられる。</p> <p>競技時間は10分。少しでも長い時間楽しめるように、シッポを奪われた人も予備のシッポを準備し復活できるようにする。大人から子供まで一緒に楽しんでもらうため、ハンドとしてシッポの長さを年代によって変える。</p> <p>競技エリアから出た場合は違反となり、シッポを相手チームに渡すが、小さい子供には、安全性を考慮、競技エリア外にチャイルドゾーンを設置し、2つのエリアを自由に出入りできるようにする。</p> <p>アレンジとして、アニマルウォークでのシッポ取りやジャンケンシッポ取りなども考えられる。</p>	<p>非常に興味深いデータである。 スポーツ推進の現状と課題ということで、昭和60年のデータと比べて、走ることも、投げることも、かなり落ちてきており、これは大きな課題だと気付かせていただいた。 おそらくこの昭和60年のデータは、きっと皆さんのお父さんやお母さん、もしくはもう少し上の方が中学生の頃のもので、その時よりも皆さんの世代の方がおそらく美味しくて栄養あるものを食べているはずであるが、体力のデータは落ちてきている。その理由をしっかりと考えていかなければならないと思う。 その中で、いいなと思ったのが、子供から大人まで一緒に楽しめるゲームを考えていただいたことである。 試しにやってみましたか。</p> <p>【明和中学校】 今は、まだである。</p> <p>是非やってみて楽しんでください。 幅広く楽しめて、特別な道具が必要ない点が面白いと思うので、ぜひこのような取組でスポーツをする習慣をつけていただきたいと思います。 ちなみに今、何かのスポーツをやったり、体を動かす習慣はあるか。</p> <p>【明和中学校】 部活をしている。</p> <p>そうですね。ぜひ、部活動も含めて体を動かす習慣を大切にしていきたいと思う。</p>	観光交流局	<p>市長回答のとおり。</p> <p>子どもの体力低下の要因については、昭和60年ごろと比べ生活様式が大きく変化し、体を動かす遊びを含め、子どもの運動する環境が少なくなっていること等が挙げられるが、まずは体を動かすことが好きとなってもらえるような働きかけができると多くの問題は改善していく。今回の「しっぽ取り」については多くの人が楽しんで取り組めるものであると思う。 いただいたご意見は、第2期鹿児島市スポーツ推進計画の基本方針1「生涯にわたるスポーツ活動の推進」の達成に向けて参考にしていきたい。</p>